

# RAD-AR NEWS

レーダーニュース

2021.6

No.126



俵木理事長がトップに聞く！特別編

## 協議会の活動は闇夜の灯台 ターゲットごとにわかりやすく伝えることが大事

日本製薬工業協会

理事長 白石 順一

一般社団法人 くすりの適正使用協議会

俵木 登美子



シリーズ | 患者さんと医療者のいい関係 特別編  
—利用者の人生に敬意表した対応の大切さ  
生活介護サービス株式会社 代表取締役 山岸 大輔

Special Interview | インターネットを介した売買の増加による、  
ヘルスケア製品とその情報環境の多様化  
～現状と課題～

東京都福祉保健局健康安全部薬務課  
サイバー薬事監視担当 梅原 洋子

トピラの向こうへ Door 04

一般社団法人 日本保険薬局協会  
変化に対応する保険薬局の組織として  
一般社団法人 日本保険薬局協会 会長 首藤 正一

信頼できる医薬品情報の発信に向けて Vol. 2

くすりのしおり® 認知度調査

一般の方1200名、医療関係者900名を  
対象としたインターネット調査

2021年度  
事業計画

■世界のくすり事情

—ボツワナ

■薬についての

ソボクなギモン

協議会監修 『正しく知って 正しく使う「くすり」の大事典』

RAD-AR®

一般社団法人  
くすりの適正使用協議会



特別編

俵木理事長がトップに聞く！

# 協議会の活動は闇夜の灯台 ターゲットごとに わかりやすく伝えることが大事

薬の適正使用のあるべき姿について考える対談企画。

今回は特別編として、日本製薬工業協会（以下、製薬協）の白石理事長との対談です。

医薬品の適正使用について連携活動を進める両団体ですが、

国民にわかりやすく情報提供を進めるうえでのポイントについて意見交換が行われました。

（協力：薬事ニュース編集部 野口一彦）

## 適正使用への取り組みは コロナ禍でより重要な

一まず、俵木理事長から、製薬協の印象をお聞かせください。

**俵木** はじめに、現在協議会が進めていきる、くすりのしおり®に製薬企業が作成している各種資材を連携させて患者さんに届ける「ミルシリュプロジェクト」に絶大なるご支援をいただき、この場

をお借りしてお礼申し上げます。

協議会の設立は1989年ですが、きっかけはサリドマイド問題にはじまるジャーナリズムからの業界批判でした。医薬品のリスクとベネフィットを適切に社会にお届けしていくというRAD-AR活動を日本でどのように始めるかが、製薬協のなかに設けられた委員会で議論されました。そこで、製薬企業にとどまらず、様々な団体や個人も参加できる団

体をつくるべきと立ち上げられたのが当協議会です。まさに生みの親というべき存在で、今後とも引き続き支援をいただければと思っております。

**白石** 協議会のご活躍はよく承知しています。とても大事な活動をされていることに改めて敬意を表したいと思います。

医薬品の適正使用への取り組みは、このコロナ禍において、とりわけ大事さを増しています。病院へアクセスしづら

い環境のなかで、患者さんが情報を求めるときには、協議会はいわば「闇夜の灯台」のように、大変すばらしいコンテンツを提供されていると思っています。

製薬協では、1968年の創設以来「患者参加型医療の実現」をモットーとしていますが、エンドユーザーである患者さんおよびそのご家族の方に、薬に関して正しい認識をお持ちいただくのは非常に大事なことです。製薬協としても、協議会とはWin-Winの関係で、これからも患者さん、国民の皆さん、世界の皆さんに良い医薬品を情報と共にお届けていきたいと念願しています。

**俵木** ありがとうございます。ご指摘のように、新型コロナウイルス感染症の拡大により、患者さんの受診控えが起こっているという報道も耳にします。その中で、信頼できる情報にアクセスできる環境を作っていくことはとても重要です。

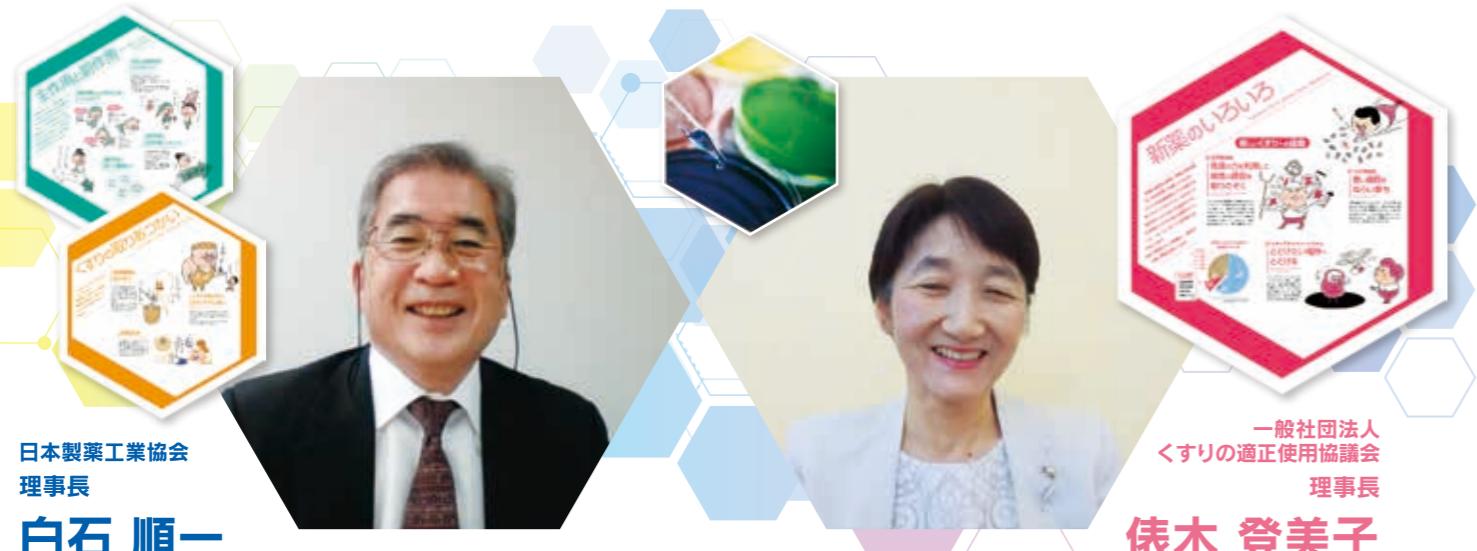
私たちは20年以上前からくすりのしおり®という医療用医薬品の患者さん向けの情報を提供しています。コロナ禍において、信頼できる情報を届けていくことの重要性をより一層感じています。くすりのしおり®サイトでは、医療用医薬品の情報以外にも、お届けしたい情報や旬な情報をバナーで表示しており、その中にお役立ち情報として、新型コロナウイルス関連のコンテンツも提供しています。日本でもワクチン接種が始まることから、厚生労働省ホームページにある「ワクチンについてのQ&A」や、新型コロナ関連の新薬およびワクチンの開発状況に関する製薬協サイトなどへのリンクを貼らせていただいています。

さんにご理解いただくことに力を注いでいます。協議会において、薬に関して、リスクも含めて説明いただいていること、本当に感謝しています。

協議会が発足した頃、私は米国の日本大使館に勤務していました。その頃米国では、薬の効果や安全性を誇張した広告が行われているのではないかと物議を醸した事例がありました。まだAIDSに対する有効な治療薬がない頃で、未承認の治療薬や治療法が注目を集めていたのです。アメリカ食品医薬品局（FDA）も承認を取得していないものは信用しないようにと呼び掛けましたが、まだインターネットも普及していないこともあり、ここに行けば正しい情報がある、というような拠り所は米国にありませんでした。Lighthouse（灯台）のようなところが必要だと考えていたときに協議会設立の話を聞いたのです。

白石 順一

俵木 登美子



日本製薬工業協会

理事長

白石 順一

1977年旧厚生省入省。旧自治省、外務省（在米国大使館）、内閣官房、環境省等で勤務。  
通算20年間勤務した厚生労働省では大臣官房、保険局での経験が多いが、医薬安全局では監視指導課長を務めた。2014年環境省地球環境審議官を最後に退職。  
三井住友銀行顧問を経て2020年4月より現職。

一般社団法人  
くすりの適正使用協議会  
理事長  
俵木 登美子



## 表紙のイメージについて

### くすりの部屋—クスリウム

日本製薬工業協会が、科学技術館に展示している「くすりの部屋—クスリウム」は、薬の研究室をイメージした展示室で、人間と薬の歴史や、薬が患部に作用するメカニズム、安全な使用方法、薬ができるまでの過程などを楽しみながら理解できる内容です。



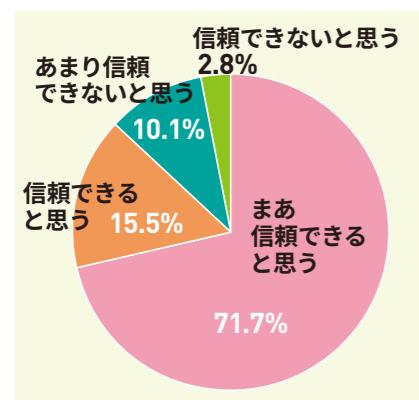
カードのバーコードを、  
クスリウムの中の  
マシンにかざすと、  
動画とゲームが始まる仕組み。

俵木理事長がトップに聞く！



くすりのしおり®検索結果画面

適正使用を推進するうえで、日本には米国に比べて有り難い点があります。それは、国民の製薬産業に対する信頼感の高さです。製薬協では毎年、生活者・患者さんを対象とした「くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」を行っており、2020年11月に公表した結果では、製薬産業に対する信頼感は87.2%でした。これは米国と比べて相当に高い数値です。大きな資産だと思っており、その信頼を裏切ることのないよう、常に強く意識しなければいけないと考えています。



製薬産業に対する信頼感

## 求められる 「わかりやすい情報」

一製薬協では、医薬品の適正使用推進による医療の質向上を重点課題にかかげておられます。この数年、両団体は医薬品の適正使用をテーマに連携活動を進めてきましたね。

**俵木** 製薬協とはいいろいろな場面で仕事を一緒にさせていただいています。2018年には製薬協と共に、日本医師会、日本薬剤師会、ささえあい医療人権センター COML、日本医学ジャーナリスト協会とで6団体共同ステートメント「健康や医療・医薬品に関する情報を正しく理解していただくために」を発信しました。また、2019年からはAMR対策、昨年はポリファーマシーの啓発などでも連携しました。科学技術館で製薬協が運営されている「くすりの部屋—クスリウム」では、協議会が作成した中高生向けの小冊子「くすりは正しく使ってこそくすり！」を配架していただいています。いろいろな形でのご協力・ご支援を感謝いたします。



中高生向け小冊子表紙



**白石** 私たちのほうこそ、本当にありがとうございます。我々の医療関係者向けの資料というのは、正確さを求めるあまり、読みづらい傾向があります。医者向け、薬局向け、あるいは行政上の要望に応えるための文章なので、難しそうなきらいがどうしてもあるのです。私どもが言うのは天に唾するようなものですが、ターゲットごとによりわかりやすくという工夫は非常に大事だと思います。エンドユーザーといつてもお年寄りからお子さん、お子さんを育てているお母さんお父さんと、いろいろいらっしゃいます。そのターゲットごとに簡単な言葉で、わかりやすく伝えいく必要があります。私どもの資料を使ってコンテンツなどを展開するときには、その辺りを心がけていただけると安心です。

**俵木** 私たちは現在、中高生向けをはじめ、子育て世代向け、高齢者向け、

高齢者を介護している50～60代向けなど、幅広く資料を作成していますが、わかりやすい資料というのはなかなか難しいものです。先日、茨城県薬剤師会が主催した講習会で、NHK「ためしてガッテン」の元演出担当デスクの講演を拝聴しましたが、私たちのやり方は全然ダメでした。こちらが伝えたいことを「伝える」のではなく、聞き手が聞いてよかったですと思えるような「伝わる」情報の出し方をしなければいけないという、目から鱗が落ちるような講演でした。私たちの資料作りも見直さなければいけないとっています。

また、最近は外国人の方も医療機関にたくさんいらっしゃいます。協議会でも英語版くすりのしおりを作成していますが、在日の方ですと、日本語が少しはわかる方もいらっしゃいますので、やさしい日本語が重要となります。わかりやすい情報提供は、外国人対応の面でも求められており、どうすれば伝えたいことがきちんと伝わるように作れるかを考えていきたいと思っています。

一協議会は薬剤疫学にも力を入れて活動しています。最近の取り組みについて紹介してください。

**俵木** 国立成育医療研究センターの「妊娠と薬情報センター」と、妊娠中の医薬品使用に関する安全性情報の充実を目指して共同研究を開始しています。現状では、添付文書を見ても、妊婦の項目に十分な情報がない薬が多くあります。昨年製薬協のファーマコビジランス部会にご協力いただいたアンケ

ト調査でも、製薬企業では妊婦さんをフォローアップして情報収集することは難しいとの結果でした。妊娠と薬情報センターでは、相談事業を通じて、薬を使用した妊婦さんと生まれたお子さんの情報を収集していますが、この取り組みを存じない製薬企業もありました。製薬企業とも協力して、この取り組みが今後も安定して運営できるようにしていきたいと考えています。

**白石** 国立成育医療研究センターで妊娠中の薬の情報提供を行っていることは承知していましたが、薬剤疫学の観点からデータを集めることにも大変意義があることがよくわかりました。製薬協の会員企業に訴えかけたいと思います。

一今後、協議会へ期待されがあればお話ください。

**白石** 繰り返しになりますが、患者さんとご家族にわかりやすく薬のことをお知らせする活動に敬意を表しています。わかりやすさという観点が苦手な私どもは、その部分でお知恵を拝借できればと思っています。私も久しぶりに製薬業界に戻ってきたものですから、新しい言葉や横文字など意味がわからないものもあります。そういう専門用語などが一般国民にもわかるよう進めていただければ、アクセス数もますます増えるものと思います。応援しています。

**俵木** ありがとうございます。わかりやすさについては私たちも勉強中ですが、一生懸命がんばりたいと思います。

この対談はオンラインで行われました。



ポリファーマシー冊子表紙

# 患者さんと 医療者の い い 関係

特別編

患者さんと医療者が良好な関係を築くためのノウハウを紹介している当コーナーの特別編として、今回は介護の現場で感じたことについてお話ししていただきます。



やま きし たい すけ  
**山岸 大輔氏**

生活介護サービス株式会社 代表取締役

略歴  
2006年ヘルパー2級(現:介護職員初任者研修)を取得し介護職員へ。2009年に国家資格である介護福祉士を取得・介護支援専門員を経て2015年社会福祉士取得、2018年より現職に就任。  
船橋認知症高齢者グループホーム連絡会会長、松戸市認知症高齢者グループホーム協議会副会長を兼任。

## 利用者の人生に敬意表した対応の大切さ

高齢社会の到来で介護職の役割は年々増加しています。介護現場では、どのようなアプローチで利用者の方と接しているのでしょうか。

学生時代より積極的に人と話すことがあまり得意ではなかった、そんな私が祖母の入院を機に介護職を志すこととなりました。

介護付有料老人ホームへ入職し間もないころ、新しく入居してきた男性のAさんと出会います。Aさんはまだ70代前半で認知症をお持ちの方でした。普段はとても温厚で、食事の際には他の利用者の方たちと共に笑顔でお話をし、スタッフにも気さくによく声をかけてくれていました。ただ、真冬なのに肌着だけで食堂にやって来たり、自室から館内の喫煙室まで裸でエレベーターに乗って来たりなど、ときどき見られる普段とは明らかに異なる様子に他の利用者の方たちが驚かれてしまうことがありました。次第に他の利用者の方たちが距離を置くようになり、それを察したAさんも他の人たちとコミュニケーションをとらず自室に閉じこもりがちになります。

### きっかけはAさんの告白

新人でヘルパー2級をとったばかりであった私は、時々「あれっ」と思われる行動をするAさんについて、ご本人はその時の行動を覚えていないのだろうと考えていました。そのように分析した理由は、Aさんがその行動について言葉にすることが一切なかつたためです。先輩スタッフも同じような見解で、その行動をご本人が覚えていないことにより、他者とのコミュニケーションを阻害てしまっているものの、気づいていないからこそその良さもあるのではないかと助言を受けていました。

ところが実際、Aさんは全てを忘れているわけではありませんでした。ある日Aさんの自室へいつものように伺った際に、

明らかに普段の表情と異なるAさんから話を聞きました。「時々自分が何をしたかは分からなければ、何かをしたのは分かる。ただこうして分からなくなってしまっていくことが本当につらい…」。日頃から弱音を吐いたり、聞いたりすることもありなかったので、今でも忘れられないひとと/orして鮮明に覚えています。

人はさまざまに辛い出来事に対して、時間とともに忘れるという防衛機制<sup>\*</sup>を持っています。忘れてしまうことでかえって良いこともあるのですが、Aさんは断片的に覚えており、そのことが本人を苦しめていたことにこの時初めて気づきました。



外出自粛中に施設でいちご狩りイベントを行いました

私は認知症の方と一緒に過ごすことが多いのですが、日々大切にしていることがあります。「認知症だからこうする」ではなく「〇〇さんだからこうする」と考えることです。つまり認知症という症状だけで一的なケアを考えるのではなく、個人として接することが大切なのです。ご利用者の方とスタッフは、初めてお会いしたその時から信頼関係を築いていくことになります。そして、目の前のご利用者の現在の状態を踏まえてアセスメントしますが、ご利用者の方は入居するまでに様々な人生を歩まれています。現状ばかりに目を向け過ぎるのではなく、これまでの生活を踏まえた対応を取ることが大切になります。例えば出身がどこなのか等、日常会話の中から個別性を知り、興味を持つことで少しづつ信頼関係を構築していきます。

### 多職種連携は介護の現場でも重要

介護職の働き方は、訪問介護や通所介護等訪問系と、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム等の施設系サービスに大別されます。複数の職場環境がある中でも、医療関係者の方との連携は不可欠です。

多職種連携で大切にしていることは、職種によりその得意領域は異なること、ご利用者の方を中心にそれぞれの強みを活かしながら、かつその領域を少し重ねることを意識しています。

介護職は専門職の中でもご利用者の方々の生活と密着しているため、例えば処方された薬の服薬状況やその効き目などを薬剤師の方へ報告することができます。飲みにくそうであると

伝えた際には、別の形状の薬への変更や一包化への提案などしていただきました。互いの強みを把握することで、ご利用者の方々にとってより良い生活を過ごすことができると思っていました。

一方で施設によっては看護師などの医療職が常駐しなくてもいい施設もあります。認知症対応型グループホームもその一つです。

介護職が日々ご利用者の方たちと同じ時間を過ごす中で、例えば便秘がちになるご利用者の方の対応も多々あります。その際、事前に医師から処方されている下剤の使用頻度の確認や、薬に頼るだけでなく身体の活動量を増やしたり、水分摂取量を増やすことで改善できないかなど相談できる相手が訪問看護師になります。ご利用者の方の個性を踏まえた対応をとるための情報を介護職員が提供し、それらを把握したうえで提案をしてもらえるので本当に助かります。

介護職と薬剤師の方の連携を高めていくための活動として、くすりの適正使用協議会ホームページ内のブログにて、介護現場での服薬に関するあるあると称したマンガの監修させていただいている。関係者の方なら、あるあるマンガをご覧いただくと共感してもらえる場面が多いと思います。現場で服薬に関して困ったときは、医師や薬剤師の方に相談できるという気づきの啓発になれば幸いです。

\*防衛機制：心理学で、不快・欲求不満や葛藤などから無意識に自分を守ろうとして働く適応のしかたのこと

● ● ● ×

### くすりの適正使用協議会ブログサイトのご紹介

協議会ブログトップ ▶ お役立ち情報 ▶ 介護と服薬あるある

**介護と服薬あるあるマンガ**  
<https://rad-ar.or.jp/blog/category/useful/kaigo/>



介護士 山岸 大輔氏

# インターネットを介した売買の増加による、ヘルスケア製品とその情報環境の多様化～現状と課題



**梅原 洋子**  
氏  
東京都福祉保健局健康安全部薬務課  
サイバー薬事監視担当

インターネット環境の整備とスマートフォン等の普及により、オンラインで製品等を購入することが日常的になりました。その中でもオークション・フリマーケットサイトの発展は近年目覚ましいです。利便性が高まった一方で、医薬品の出品といった法令に抵触する事例や不適切な宣伝が行われている側面もあります。ここでは全国初となる専門の監視員を設置した東京都福祉保健局健康安全部薬務課で、現在の『サイバー薬事監視担当』である梅原 洋子さんに、担当としての役割と現状などについて話を伺いました。

※サイバー薬事監視担当とは  
東京都福祉保健局健康安全部薬務課における担当として2014年に設置。設置の背景には同年に施行された「薬事法施行規則等の一部を改正する省令」により、一般用医薬品をインターネット販売する際のルールが整理されたことや、ネット上の違反広告の増加などがある。

## — サイバー薬事監視担当の役割と主な業務内容について

2014年に担当として設置される前からインターネット上の監視は行っており、ネット関連企業との監視協力体制の構築は2002年度まで遡ります。サイバー薬事監視担当は、医薬品や健康に関するインターネット広告の急速な普及や、ヘルスケア製品を取り扱うネット

ショップの増加、多様化する取引形態を受け、関連機関と相互に連携し周辺環境の変化に総合的な対応を取る役割を担っています。

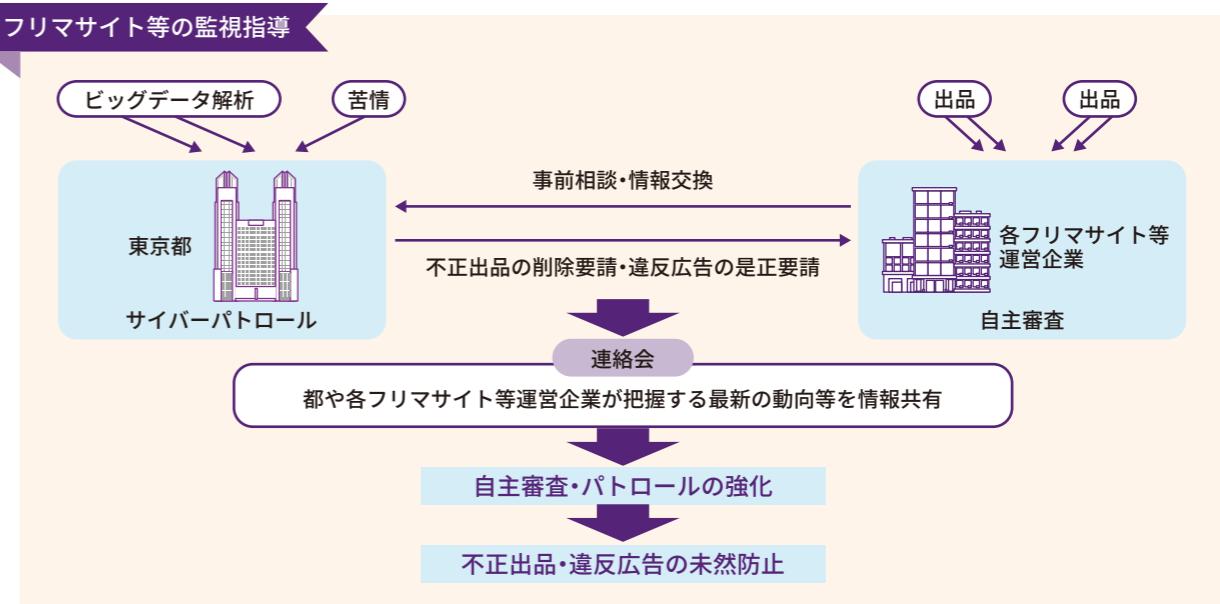
業務内容としてはインターネットショッピングモール（以下：SM）、フリマサイト、SNS、配信型ネット広告に対する薬事監視指導です。

SMにおける具体的な薬事監視内容

は、個別監視指導と協力インターネット関連企業を通じた啓発・注意喚起です。個別監視指導ではネット上の各店舗に対し1件ずつ監視指導を行います。しかし、ネット上の販売店は多数あり、同じような違法出品が複数のSMで展開されているケースが多いことから、インターネット関連企業と情報共有を目的とした連絡会を2018年から開催しています。そこでは具体的な違反事例などについて共有し、効果的な監視体制を構築しています。

一方で、近年広がりを見せているフリマサイトは、主に物品のリユースを目的に個人間取引が行われる性質のサイトですが、今ではリユースのみならず、ハンドメイド製品を事業として販売する作家が存在しているほどの賑わいを見せています。

フリマサイトの違反状況については、大きく2つに分類できます。一つ目は、



商品自体を出品してはいけない場合です。具体的には処方された医薬品やコンタクトレンズなどがあります。これらは、医薬品や高度管理医療機器に該当する物なので、薬局等の販売業の許可がなければ販売することはできません。また、許可なく輸入や製造した化粧品は販売できないため、個人輸入した化粧品や手作り化粧品も販売できません。二つ目は、出品自体は問題ないものの広告が不適切な場合です。国内で正規に製造販売された化粧品や医薬部外品、健康食品は、販売すること自体には許可は必要ないので、どなたでも出品することはできます。しかし、「アトピーが治った」や「がんが消えた」などの広告を出すことは、当然のことながら医薬品医療機器等法に違反します。

## — 直近の取引状況と新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

フリマサイトは市場として伸長傾向にありますが、明らかに違反事例と判断できる出品は当初に比べ減少しています。これは、フリマサイト運営企業とも連絡会を開催し、最新の動向等を情

報共有することで、運営企業の自主的な審査が向上し、不適正な出品の防止につながっているためです。

こうした中で、2020年に発令された緊急事態宣言によるステイホーム期間などを受け、全体の出品量が急増しました。薬務課に対してもヘルスケア関連商品の出品に対する問い合わせが数多く寄せられる一方で、規制されている製品の取引が成立してしまう不適切なケースも発生しました。不適切な出品に関しては運営企業も自主点検を行っておりますが、コロナの影響で分母が急増したこと、不適切な出品とのいたちごっこに拍車がかかったところがあり、対策が必要な部分であると感じます。

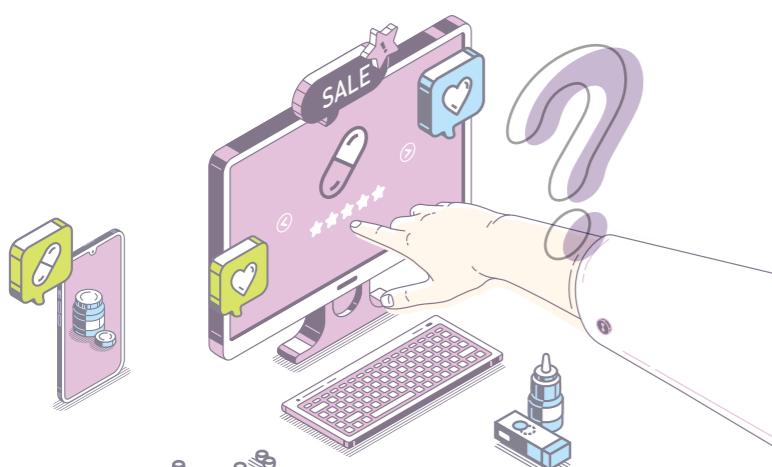
## — フリマサイトが定着しつつあるなか、医療関係者はヘルスケア製品の流通についてどのような認識を持つべきでしょうか

本来あってはならないことですが、処方薬や一般用医薬品が出品され、売買が成立してしまうケースがあります。運営企業側も出品禁止ワードを設定するなどの対策を取っていますが、規制の網を巧妙に逃れている出品者もいま

す。利用者から「このような出品は大丈夫なのですか」と問合せが入ることもあります。

フリマサイトは、誰でも出品でき、購入することができます。売る側・買う側ともに、「販売できるものは細かく決められており、注意が必要であること」、「販売可能なものであっても、広告内容に注意が必要であること」、「個人輸入したものを販売すると法違反となることがある」と理解していただきたいです。

また、処方薬は医師が患者さんに適した医薬品を個別に処方しているもので、他の人に処方された医薬品を使うことはとても危険です。フリマサイトで売買されてしまうことは、医薬品医療機器等法に抵触するだけでなく、健康被害が生じかねない危険なことです。この点もフリマサイト利用者に正しく認識していただきたいですし、医療関係者の皆さまにとっては、処方薬を譲渡してはいけないことや、薬が余ったときの対処方法を患者さんに説明することも大切ではないでしょうか。医薬品をフリマサイトなどに出品してはならないことも、しっかり伝えていただきたいです。



# トピラの 向こうへ

このシリーズでは、  
さまざまな団体や組織の  
活動をお聞きし、  
協議会との共通項や、  
新たな連携を見据えた  
活動の可能性を探ります。  
今回は、  
日本保険薬局協会の  
首藤会長に、  
協会としての活動方針や  
医薬品の適正使用に向けた  
取組みなどについて  
お聞きしました。



会長 首藤 正一 氏

1959年11月生まれ。1982年に株式会社第一臨床検査センター(現 株式会社AINホールディングス)に入社。2000年に取締役就任後、常務取締役、専務取締役を経て、2015年に代表取締役専務に就任(現職)。2016年に日本保険薬局協会副会長、2020年より同協会会長を務める。

## Door 04 一般社団法人 日本保険薬局協会

# 変化に対応する 保険薬局の組織として

### 1 設立の経緯

当協会は2004年4月に保険薬局の経営者団体として、安全性、利便性、経済性のキーワードのもと、国民の視点に立った保険薬局の育成、関連情報と業務の効率化及びそれに付随する各種基盤整備等を行い、真に国民から信頼と満足が得られる保険薬局の実現に寄与することを目的として、会員数256社で設立されました。その後、2005年4月に「信頼される薬局をつくる経営者の会」と合流、2007年5月に有限責任中間法人化、2009年4月に一般社団法人化し、現在、会員企業は538社、薬局数は1万5千軒を超え、薬剤師も5万9千人超の組織となっています。

### 2 薬剤師の研修・認定事業の概要

我が国はすでに超高齢社会に突入し、人生100年時代においても持続可能な医療環境の実現を目指して制度設計が行われています。このような中で、薬局には各地域で構築される地域包括ケアシステムの一翼を担い、その役割を果たしていくことが期待されています。

- 1 患者や国民に、メリットを感じていただけるサービスを提供できるよう、専門職種間の協働を促進すること等、薬局・薬剤師の役割の見直しや業務の改革を積極的に推進すること。
- 2 次世代の薬局サービスのあり方を検討するとともに、薬局の将来ビジョンを持ち、持続可能な医療を実現するために、医療制度の改革に貢献すること。
- 3 国民に信頼される薬局であるために、会員企業のコンプライアンスをはじめ、リスクマネジメントを徹底すること。
- 4 自然災害への対応等、地域社会が抱える課題に対して、薬局・薬剤師機能を活用して取り組み、CSR(社会貢献)やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献すること。今般のような感染症の蔓延についても、地域に密着した医療インフラとしての薬局機能を発揮して、感染拡大防止の一端を担うこと。
- 5 すべての地域において、国民に安心・安全で質の高いサービスを提供するために、会員企業が環境変化に対応し、薬局機能を果たせるようサポートすること。

## 3 他団体との連携・協力

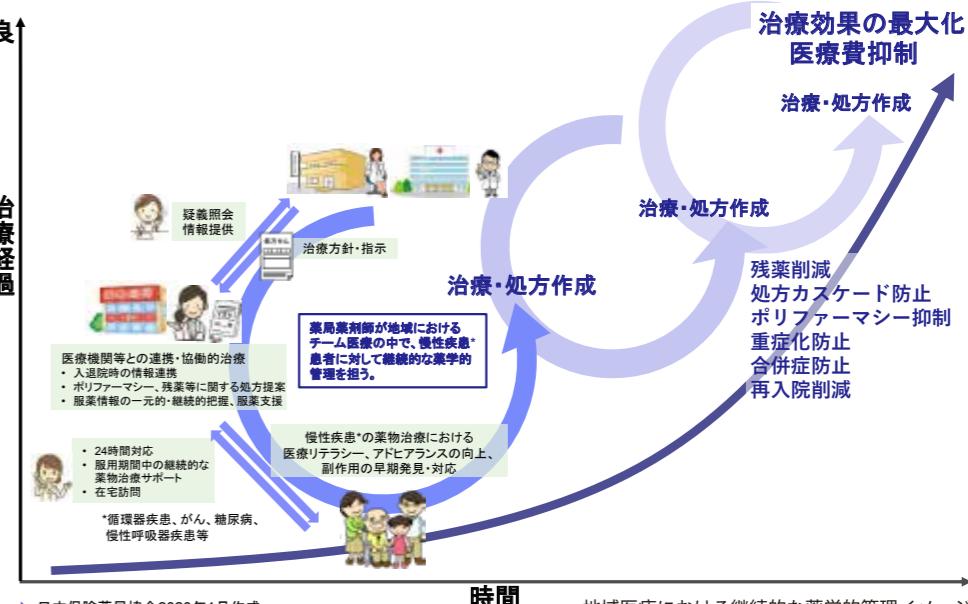
日本保険薬局協会は、医療の各種関連団体と協力・連携していく考えです。中でも薬剤師の職能団体である日本薬剤師会とは具体的な取り組みを行っており、依頼のあった調査研究には積極的に協力し、会員一丸となって取り組んでいます。この取り組みを通じて、薬局薬剤師の業務を国民の皆さんに見える化し、理解していただけるよう努めています。また、

日本病院薬剤師会が「地域連携の手引き」を作成し発表しましたが、作成に携わった方々と情報交換させていただき、これに応えるべくアンサーブックとして「地域連携の手引き(薬局版)」を作成しました。この手引きは、病院と薬局の連携をより機能的していくツールの一つとして活用しています。

## 4 医薬品の適正使用に関する課題のなかで、とくに注目されていることについて

厚生労働省が2015年に策定した「患者のための薬局ビジョン」には、かかりつけ薬剤師としての役割の発揮に向けて「対物業務から対人業務へ」と記載されています。

当協会は、昨年「地域医療における薬学的管理のイメージ」を作成し公開しました。医師の処方から始まり、疑義照会、服薬情報の一元管理、入退院時の連携、ポリファーマシーの解消、そして服薬期間中フォローアップという一連の治療の流れの中で、薬局薬剤師が連続して関わり、多職種と情報を共有し連携することで、外来診療、入院、在宅医療等患者さまの様々なシーンにおける



日本保険薬局協会2020年1月作成

る薬物治療効果の最大化、つまり医薬品の適正使用に貢献できると考えています。

## 5 製薬企業へのメッセージ

医薬品の供給は保険薬局の重要な使命です。使い方によっては身体に良い効果だけでなく、悪い影響をもたらすこともあります。良質で安全な医薬品と、それを使用する際に必要な情報を合わせて患者さまへ提供しなくてはなりません。

昨今、イトラコナゾール製剤の異成分混入や製造工程における試験の不適合等による医薬品の回収が相次いでいます。これらは医薬品供給体制の根本を揺るがすものであり、患者さまの医薬品服用に対する不安を大きくした事例であると感じています。薬局においても鑑査の体制を再確認し、安全な医薬品供給に努めています。

製薬企業におかれましては、患者さまが安心して購入、服用することができる品質が保証された医薬品の安定的な供給と、様々な背景や条件下での医薬品の使用に必要なアップデートされた情報の提供を期待しています。

## 6 協議会への期待

くすりの適正使用協議会は、人の健康保持とQOLの向上を目的として、「くすりのしおり」による患者さまへの医薬品情報の提供や、くすり教育の支援・啓発活動を行い、薬剤疫学手法の啓発・普及に努められています。

「くすりのしおり」は今や、しおりにとどまらない立派なデータベースと化しています。その他、薬剤疫学が進展し、各種データベース等と各種疾患の薬物治療ガイドライン、そして各薬局の電子薬歴との連携が可能であれば、薬局の応需した処方箋の処方監査、服薬指導及び処方提案等の質や精度、効率が向上し、薬局薬剤師が患者さまの薬物治療の最適化に貢献できるのではないかと考えます。ぜひご検討ください。

# 信頼できる 医薬品情報の 発信に向けて

Vol.2

## くすりのしおり®認知度調査

一般の方1200名、医療関係者900名を  
対象としたインターネット調査

2020-2022年度の中核事業として、くすりのしおりに各種の関連情報を連携させる、信頼できる医薬品情報提供サイト構築事業「ミルシルプロジェクト」を進めています。プロジェクトの一環として、くすりのしおりの認知度向上を図り、ひいては当協議会の知名度向上にもつなげることを目指しています。本プロジェクトの成果を図る指標として、プロジェクト前後のくすりのしおり認知度の変化を確認するため、2020年9月にベースライン調査としてその認知度調査を実施しました。調査の結果から医療用医薬品についての情報入手の現状が見えてきました。この結果を、今後の当協議会活動の展開にも活用していきたいと考えています。

### 医療用医薬品の情報入手先

患者さんが医療用医薬品に関する情報を入手する先として、医療関係者と並んで、インターネットの利用が多いこ

とがわかりました（表1）。直接的な比較はできませんが、当協議会が1995年から行ってきた調査と比較して、インターネット利用の割合が大きく増加しています。性別では女性の40歳、50歳

代において「インターネットで調べる」が全年代平均より10ポイント以上高くなりました。一方で、「薬剤師に聞く」、「医師に聞く」と答えた割合が最も多いのは年代別で60歳、70歳代でした。

表1 処方された医療用医薬品の調査方（一般）

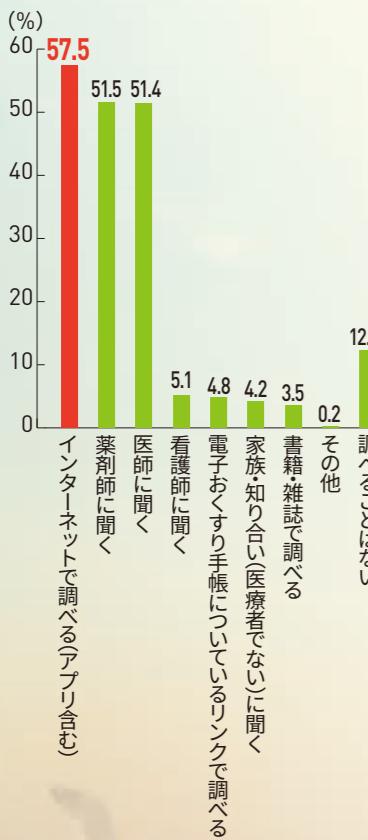


表2 くすりのしおり®の認知度（医療関係者）

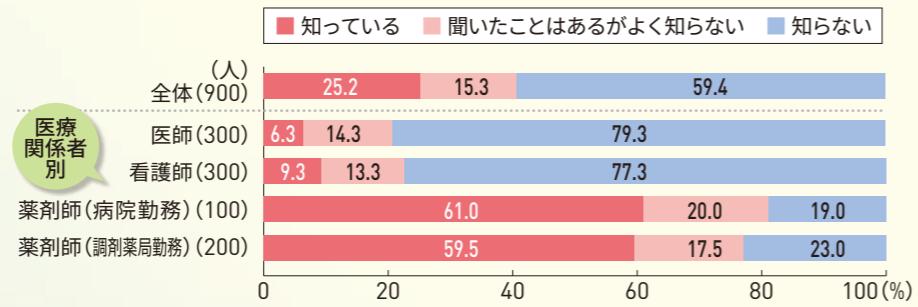
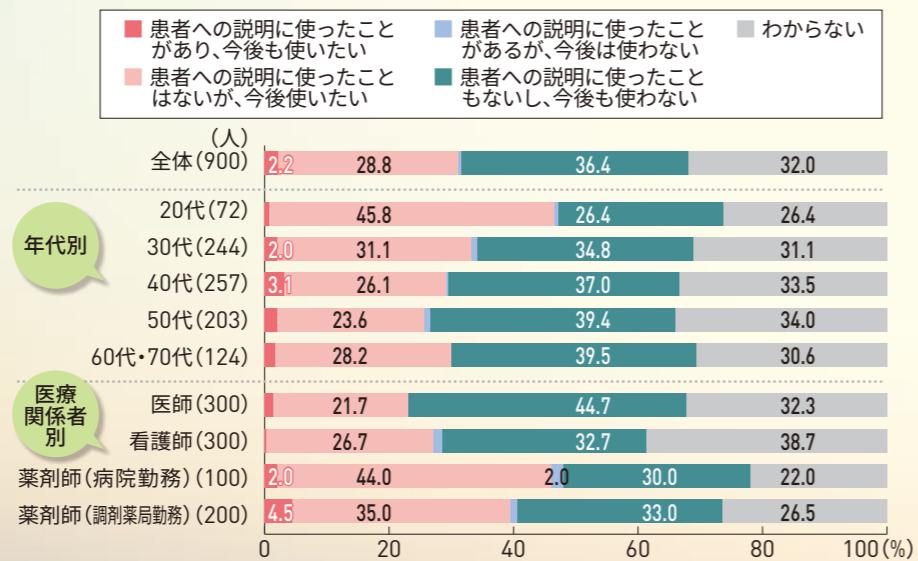


表3 くすりのしおり®の使用意向（医療関係者）



### くすりのしおり®の認知度

一般の方に、医薬品検索で上位に掲載される代表的な情報媒体、おくすり110番、お薬事典、処方薬事典、患者向医薬品ガイド、お薬検索、医療用医薬品情報検索、KEGG MEDICUSについて知っているか尋ねたところ、いずれの情報媒体も6%にも満たない状況でした。くすりのしおりのサイトには月平均で数百万のアクセスがありますが、まだまだ認知度が低いことが明らかになりました。

一方、医療関係者（医師・薬剤師・看護師）に、くすりのしおりを知っているか尋ねたところ、「知っている」が、薬剤師（病院勤務）では61.0%と高かったのに対して、医師、看護師ではそれぞれ6.3%、9.3%であり、一般の方よりは若干高いものの、まだまだ知られていない状況がわかりました。（表2）

### くすりのしおり®の使用意向

医療関係者に対し「くすりのしおりを、患者さんへの説明に使いたいか」と尋ねたところ、「くすりのしおりを使ったことはないが、今後使ってみたい」とする回答が薬剤師（病院勤務44.0%、薬局勤務35.0%）医師21.7%、看護師で26.7%ありました（表3）。

なお、年代別では20歳代が最も使ってみたいという意向が確認されました。

今後、くすりのしおりの認知度を上げ、活用方法を知っていただくことで、さらに活用が広がっていく可能性が示唆され、ひとつの活動の指針となることがわかりました。

当協議会はくすりのしおりを信頼できる医療用医薬品情報として選んでいただけるよう、更なる努力を続けてまいります。

### 協議会監修

正しく知って 正しく使う /  
「くすり」の大事典



2000年から始まった協議会のくすり教育普及啓発活動。今年は開始から21年目を迎えます。くすり教育の支援活動に長年注力している当協議会にぜひひにと頼があり、中学生・高校生を対象とした「正しく知って正しく使う「くすり」の大事典」の監修を担当、2020年10月に刊行されました。

活動開始時には想像もしていなかったコロナ禍で、毎日のように新型コロナウイルス感染症のニュースを聞き、子どもたちでさえその治療薬やワクチンの開発に関心を寄せているでしょう。しかし、ニュースで飛び交う「ワクチン」「有効性」「副反応」「臨床試験」「承認」などの言葉の意味がよく分からずいる子どもたちも多いのではないでしょうか。

こんな今だからこそ、いろいろな薬に関心を持ち、正しい知識を持ってほしいとの思いが詰まった大事典。児童書の取り扱いが多い大型書店はもちろん、既に全国の公立図書館で貸出が始まっています。今後、学校図書室での取り扱いも進むことが期待されます。病院図書室の蔵書として置きたいという声も寄せられています。日本薬剤師会雑誌や、朝日中高生新聞のLINEグループでも紹介されました。

本書が一人でも多くの子どもたちに読んでもらえることを願っています。

正しく知って 正しく使う  
「くすり」の大事典

ISBN978-4-7743-3095-2

【対象】中学生～高校生

【体裁】A4 変形判・144 ページ

【発売】2020年10月12日

【定価】本体 5,000 円+税

【発行】くもん出版



# 2021年度 事業計画

2021年度事業計画及び予算が、2月10日開催の第11回理事会において承認されました。第11回理事会は、昨年6月の総会において、製薬企業以外の日本医師会・日本薬剤師会・アカデミア・患者支援団体からも理事をお迎えすることになり、新理事を交えた初めての理事会でしたが、コロナ禍の事情を考慮し完全オンラインでの開催となりました。

2021年度は、昨年からスタートした3年間の新しい中期活動計画の2年目にあたり、2020年度に進めてきた事業を継続して、中期活動計画の実現を目指します。

中期活動計画では、信頼できるサイト構築事業（ミルシルプロジェクト）を主軸として取り組んでいます。ミルシルプロジェクトは、月平均数百万回のアクセスがある「くすりのしおり®」を活用し、信頼できる各種情報を連携させるサイトを構築するプロジェクトで、2022年4月を目途に、個別の医薬品情報から関連情報を閲覧できるポータルサイトとして公開する予定です。

## 信頼できる医薬品情報サイト構築プロジェクト 31,900千円

事業	概要
くすりのしおり 内容見直し	新しおり作成基準の策定 しおり作成ユーザー協力の下、新しおり案の課題等を抽出し、基準見直し
連携情報の対象 範囲・掲載基準 の策定	連携情報掲載基準案等のパイロット実施 掲載基準案、掲載の手引き案の課題を抽出し、見直し
しおりシステム/ 情報サイトの 開発・改修	パイロットの実施 システムの詳細設計終了後、ユーザーテスト実施 システム改修後、パイロットを行い課題抽出
協議会サイト 全体の再構築	サイトのシステム改修開始

### 薬剤疫学委員会

4,360千円

- ・DB研究の実践
- ・薬剤疫学に関するセミナーの実施
- ・PV最新情報調査

中外製薬株式会社  
松田 真一



### くすり教育・啓発委員会

3,950千円

- ・くすり教育支援
- ・くすり教育資材作成
- ・一般向け啓発推進
- ・介護職向け啓発資材の作成

興和株式会社  
豊園 勝志



### くすりのしおりコンコーダンス委員会

2,536千円

- ・くすりのしおり活用度上昇
- ・英語版・注射版の作成数増加・活用度上昇
- ・コンコーダンスを理解した薬剤師の増加

協和キリン株式会社  
栗原 理



### 先進医療製品適正使用推進委員会

2,690千円

- ・バイオ医薬品の普及啓発活動の推進
- ・バイオ医薬品に関する新規資材の作成
- ・他団体との協業の推進

協和キリン株式会社  
矢田 武



## 委員会活動



# 世界のくすり事情

## Botswana ボツワナ

「えっ」と驚く海外の薬にまつわる事情をシリーズでお届けします。

### 第6回 ボツワナのコロナ：濃厚接触者経験

南部アフリカに位置する、ダイヤモンドの国ボツワナに滞在して1年3ヶ月が経ちました。初めてのアフリカに、不安と期待が入り交じるなか到着した首都ハボロネ。予想外に道路状況はよく、大型ショッピングモールも点在しています。

#### ボツワナ国とボツワナ人

アフリカの大地に初めて足を踏み入れた国ボツワナ。暑いけれど空気はカラッとしており、大地は赤くアフリカを感じさせる色をしていました。ボツワナはダイヤモンドが採れる国で、政府はその収入で経済を回しており、アフリカの中では比較的裕福（中進国）で治安も良好。治安の面では「歩けるアフリカ」と言われています。日常生活においても特別困ることはなく、街行く人も気さくに声をかけてくれます。「怒ること」を嫌うボツワナ人は、とても穏やかな性格で喧嘩や争い事が苦手です。



ボツワナの薬局

#### 新型コロナウイルス感染状況

そんなごく穏やかな日常の中、2020年3月に新型コロナウイルス感染の波が日本やアジア、世界各国を襲い、一歩遅れたようにアフリカにもやってきました。

ボツワナ人は慎重です。3月末の時点で感染者は出でていなかったにも関わらず空港が閉鎖され、感染者が出始めた4月にはロックダウンが繰り返し発令されました。南アフリカからの輸入に多くを頼るボツワナでは、ロックダウンにより物資供給が滞り、ガソリンも値上がりしました。スーパーや各店舗では、入店前に検温して、リストに名前・携帯番号・体温・入店時刻を記載しなければなりません。そのため長蛇の列に並ぶことが日常となりました。それでも現在まで感染者数は増えています。

#### 濃厚接触者・陽性になったら…

ボツワナの人口は約230万人。現在の感染者数は、約1万6,000人、死者は48人（2021年1月11日現在）。南部アフリカの近隣国（ジンバブエ・ナミビア）に比べても死者は極端に少なく抑えられています。ここで、ボツワナで濃厚接触者や陽性になった場合について触れておきます。

ボツワナの濃厚接触者の定義は以下の3つです。

- ①マスク装着の有無に限らず2メートル以内、15分以上の会話をした場合
- ②身体的な接触があった場合
- ③密室に一緒にいた場合

日本の定義の「マスクを装着せず1メートル以内で15分以上の会話をした場合」に比べてかなり厳しい条件と言えます。また、もし濃厚接触者になった場合は、すぐにPCR検査を受け、検査日を初日と

奥 真貴子

薬業系メディア勤務後、転勤で  
2019年10月よりボツワナ在住。



して、10日後に2回目のPCR検査を受けます。その結果が陰性であっても14日間の隔離をしなければなりません。

PCR検査で陽性が判明した場合は、10日間の隔離後PCR検査を受けずに隔離が終了します。これは無症状または軽症の場合は、ウイルスが体内にあったとしても10日間の隔離によって感染力は既にないとみなされ、検査の必要はないと言われているからです。

私も同僚が陽性になったため、濃厚接触者になりました。PCR検査の1回目も2回目も結果は陰性でしたが、14日間にわたる自宅隔離はつらいものでした。隔離期間中は一步も外には出られません。そのため、突然の隔離に備えて、十分な食料や水を備蓄しておく必要がありました。

インターネット等による通信販売や宅配事業者ではなく、不便なところが日本との違いかもしれません。

#### ボツワナの薬

コロナに対する薬（ワクチン）の話はまだ日常生活で聞くことがありません。行われているコロナ対策は、手洗い・うがい・マスク・2メートルのソーシャルディスタンス・飲酒を控えるなどです。ボツワナでは免疫力を落とさないことが一番大切だとされています。

2021年1月からは、夜8時～朝4時まで外出禁止となり、酒類も販売禁止となりました。早くコロナの終息を願うばかりです。



オカバンゴ・デルタの野生動物



# 薬についての 「ソホクなキモン」

薬を飲んだら尿の色が変わりました。大丈夫でしょうか。



## 答え



薬によっては服用すると尿や便の色が変わることがあります。薬そのものの色や、薬の代謝物によって尿や便の色が変化する場合は問題ありません。

例えば、セフジニル（セフゾン®）、リファンビシン（リファジン®）などは尿が赤く変化し、ビタミンB2剤は尿の色が黄色くなることがあります。

また、鉄剤は便の色が黒く、バルプロ酸ナトリウム徐放錠（デパケンR®）は、便に白い薬のカスが含まれることがあります。

一方、病気や薬の副作用によって色が変わる場合もありますので注意が必要です。

尿が赤っぽい場合は尿路出血、白く濁っている場合は尿路感染、褐色尿で筋肉痛や脱力感がある場合は薬の副作用の可能性があります。

便が赤～黒の場合は消化管出血や、薬の副作用で胃腸が傷ついた可能性もあります。

不明なことは医師または薬剤師に相談しましょう。

※（ ）は代表的な薬剤名

## 一般社団法人くすりの適正使用協議会の現況

(2021年4月末現在)

### 協議会をささえる会員（五十音順）

#### ●製薬企業会員 23社

- 旭化成ファーマ株式会社
- アステラス製薬株式会社
- アストラゼネカ株式会社
- アッヴィ合同会社
- エーザイ株式会社
- 大塚製薬株式会社
- 小野薬品工業株式会社
- キッセイ薬品工業株式会社
- 協和キリン株式会社
- 興和株式会社
- サノフィ株式会社
- 塩野義製薬株式会社

- 第一三共株式会社
- 大正製薬株式会社
- 大日本住友製薬株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 田辺三菱製薬株式会社
- 中外製薬株式会社
- 東和薬品株式会社
- 日本新薬株式会社
- ノバルティス ファーマ株式会社
- マルホ株式会社
- Meiji Seika ファルマ株式会社

#### ●賛助会員 5社・1団体

- 株式会社 EM システムズ
- 株式会社グッドサイクルシステム
- シミック株式会社
- シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
- 日本 OTC 医薬品協会
- 日本医師会 ORCA 管理機構株式会社

#### ●個人会員 8名

#### ●特定会員 181社

### くすりのしおり 登録状況

日本語版：16,533種類（-11）

英語版：10,917種類（+443）

※カッコ内は10月末からの数値からの変化

### 会員募集中！

協議会の趣旨にご理解を賜り、新たなパートナーとして参加いただける会員\*を随時募集しております。入会の詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

\*企業、団体、個人を問いません

URL : <https://www.rad-ar.or.jp>

E-mail : [ishibashi@rad-ar.or.jp](mailto:ishibashi@rad-ar.or.jp)

電話 : 03-3663-8891

FAX : 03-3663-8895